

# 発掘調査

試掘調査を行った結果、遺構や大量の遺物が確認されると発掘調査が必要になる場合があります。「発掘」という言葉はみなさんも耳にしたことがあるかと思いますが、「発掘」と聞くと考古学者が出てくる某ハリウッド映画のような「トレジャーハンティング」を思い浮かべる方もいるかもしれませんが、実際には非常に地道な作業を繰り返して、積み重ねていくことが中心となります。多くの場合、発掘調査による記録だけがその遺跡を知る唯一の手がかりとなるため、「何が」「どこから」「どのような状態で」出土したのかなど、細かい記録を残していく必要があります。そのため、発掘調査は人の手によって丁寧に行われます。現在、日本で行われている発掘調査の多くは【記録保存調査】です。このほかに【保存目的調査】があります。ここでは、それぞれの調査の様子を紹介します。

## 【記録保存調査】

住宅の建設や道路の敷設などの開発事業が行われるため、現状保存ができない埋蔵文化財について、遺跡の記録を保存するために行う調査

## 本上遺跡発掘調査

縄文時代中期から晩期の集落遺跡。平成23・27年度の調査では、縄文時代の竪穴式住居跡、土壙を検出しました。また、大量の縄文土器や石器が出土したほか、土偶、耳飾、玉や管玉など、ほかの遺跡ではあまり見られない遺物も出土しました。



▲縄文土器(出土状況)



発掘調査区全景 (平成23年度)

## 諏訪久保遺跡発掘調査

古墳時代中期を主体とする集落遺跡。平成22年度の調査では、縄文時代の竪穴式住居跡や竪穴状遺構、古墳時代の竪穴式住居跡、土壙、奈良・平安時代の竪穴式住居跡などの遺構が見られました。また、縄文土器や石器のほか、土師器、須恵器、鉄製品、鉄滓などの遺物が出土しました。



▲出土した遺物から、生活や時代背景が読み解ける



精査の様子

## 【保存目的調査】

地域の歴史や文化を理解するうえで重要な遺跡を対象に、その現状保存を目指して、遺跡の内容や範囲を把握するために行う調査

## 伊奈氏屋敷跡発掘調査

平成29年度より継続的に実施している調査です。関東郡代伊奈氏の祖である伊奈熊蔵忠次が、小室の關伽井坊屋敷を接收し築いた陣屋跡で、当時は偲ばせる土塁や堀、道路などが現存するとともに、「表門」「裏門」「蔵屋敷」「陣屋」などの名称が残っています。平成29年度の調査では、伊万里焼や志野焼などの陶磁器片のほか、水晶が出土しました。今年度も発掘調査を実施する予定です。



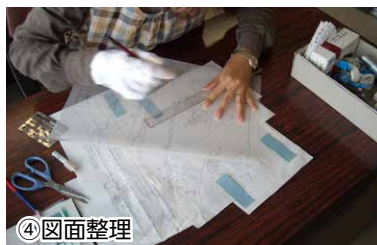
▲伊万里焼



▲水晶

### 3 整理作業

発掘調査終了後、調査時に作成した図面類や出土遺物の整理などを行います。整理作業では出土遺物を洗う「洗浄」、どこから出土したものをかを遺物の内側に直接書き込む「注記」、割れている土器を元の形に復元する「接合・復元」などを行います。発掘調査により得た資料は、その遺跡を知るための数少ない物証であるため、丁寧に確実な整理作業を行います。



### 4 公開と活用

遺跡を含む文化財は、貴重な財産であるため、調査成果を広く公開する必要があります。

発掘調査・整理作業の成果を報告する発掘調査報告書の作成に加え、郷土資料館では、出土した土器や石器などの実物の展示、発掘

調査の様子のパネル展示などを行っています。また、夏に実施しているまが玉づくり体験や各種講座でも、実物の土器や石器を用いた解説をするなど、活用に努めています。



▲伊奈氏屋敷跡現場説明会の様子



▲郷土資料館での展示の様子



▲遺跡ごとの発掘調査報告書